

2023～	障害者福祉研究 I	単位数	履修方法	配当学年
		2単位	SR	1・2年
		担当教員	三浦 剛	

■授業のテーマ

ソーシャルワーク理論に基づく「障害者福祉（障害者支援）」研究

■授業の目的

ソーシャルワークの視点から障害者福祉を整理検討し、ソーシャルワーク理論に基づくアプローチの方法を学び、実践活用にも結びつけられるようになることを目的とする。

■授業の到達目標

- ・ ソーシャルワークの枠組みを理解し、障害者福祉領域での諸問題を解決するための研究方法を修得する。
- ・ 基礎的なソーシャルワーク研究方法を習得し、障害者福祉研究のデザインをすることができる。

■授業の概要

「障害者福祉」とは障害がある方への支援施策の全体をさすことばとして使われてきたが、その一領域であるソーシャルワークは、この分野で未だに明確な固有性を示せていない。ここではソーシャルワークの視点からその歴史的展開や理念についてとらえ直し、障害がある人にかかわるソーシャルワークの意味と価値を考える。つぎにソーシャルワーク理論からそのアプローチについて分析、検討し、ソーシャルワーク・モデルを開発する。その枠組みからこれまでの施設入所などの支援を分析し、その方法、技術について再考する。

障害がある人たちへのソーシャルワークのもう一つの課題として、重度の障がいがある人をどうとらえるかがある。アドボカシー、意思決定支援と社会貢献の視点から、実践活用にも結びつくように、直接的支援のあり方や質に関する議論も進めていきたい。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1	障害者支援の史的展開を踏まえ、ソーシャルワークとの接点を確認し、障害がある人へのソーシャルワーク・アプローチによる支援モデルを考える。	【提出期限】 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向対面授業1週間前まで <input type="checkbox"/> 対面授業前日まで <input type="checkbox"/> その他 ()
課題 2 (事後課題)	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際について、支援方法や支援システムを、開発し、そのプロセスや評価法についても具体的に述べる。	【提出期限】 <input type="checkbox"/> 対面授業後1ヶ月以内 <input checked="" type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで <input type="checkbox"/> その他 ()

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス

課題1 アドバイス

「在宅学修15のポイント」を参考に、障害の概念、障害者支援の史的展開に関する基礎的な知識を学修しておいてください。そして、ソーシャルワークの枠組み（視点・モデル・アプローチ）に関する基礎知識を確認し、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際について、事例研究などを通し具体的なイメージがもてるよう学修してください。

課題2 アドバイス

スクーリングでの学びを踏まえ、ソーシャルワークの視点から障害者支援の枠組みを示してみる。そして、ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際（プロセス、評価ポイントなど）から、ソーシャルワーク・アプローチによる支援モデルを構築してみる。その際には、支援システムによる多機関連携やチームアプローチについても視点を置く必要がある。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	生活困窮と障害	遺棄、虐待、働けない貧民、生存権	生存権の確認(20世紀初頭)までの障害がある人のおかれた環境について学修する。
2	人権と障害	人権思想 リハビリテーション	人権思想の興りから第二次大戦後までの展開について学修する。
3	保護偏重の施策について	大規模施設、コロニー、分離処遇など	北欧やアメリカでの施設の大規模化、保護偏重化への過程を分析し、学修する。
4	ノーマライゼーションの理念	1959年法 脱施設、施設解体	保護偏重に対するノーマライゼーション理念の興りとアメリカでの展開について学修する。
5	「自立」概念の拡大	IL 運動、消費者主義	IL (independent living) 運動が自立の概念を拡大していく過程を学修し、障害学への展開にも触れる。
6	地域支援と契約制度について	社会福祉法、契約制度、応益負担	日本を中心に近年の制度動向についてキーワードを中心に学ぶ。
7	ソーシャルワークの歴史	社会問題、ケースワーク	障がいの問題を社会問題ととらえ、人と環境の相互作用を視点にソーシャルワークとの関連性を学ぶ。
8	ソーシャルワークの枠組み	生態学的視点、生活モデル、環境調整、エンパワメント	ソーシャルワークの視点、モデル、アプローチについて学び、ICF との親和性を中心に、障害者支援におけるソーシャルワークの意味を知る。
9	ソーシャルワークの視点について(エンパワメント、アドボカシーの概念)	アドボカシー、エンパワメント、ストレングス	近年、障害者福祉の中心的な概念となったアドボカシーとエンパワメント、ストレングスについて学ぶ。
10	ソーシャルワークの展開について(1)	ミクロ・レベルからマクロ・レベルへの連続体、生物・心理・社会モデル、障害受容、家族支援、SST、認知行動療法など	人と環境との相互作用が、個人、家族、地域、制度などのレベルへ連続していることと、その支援展開の実際を学ぶ。
11	ソーシャルワークの展開について(2)	社会資源開発、ネットワーク形成、チームアプローチ、コーディネーション	障害がある人の地域支援活動に必要な、ソーシャルワークの開発機能について、基礎知識、方法を学ぶ。
12	ソーシャルワークの展開について(3)	ソーシャル・アクション、ネゴシエイション	開発機能に必要なとされる関連技術の基礎知識と方法を学ぶ。
13	ソーシャルワークの展開について(4)	ケアマネジメント、障害者相談支援事業	障害者支援の実際をケアマネジメント・プロセスに沿って理解する。
14	ソーシャルワーク実践活用へ向けて	事例研究法	ソーシャルワーク実践における障害者支援の実際について事例研究を中心に学び、実践活用の方法を考える。

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
15	まとめ		ソーシャルワークと障害者支援の関連性を明確にしなが、ソーシャルワークの枠組みを通して障害者支援を再構築してみる。まとめとして、「障害者支援の史的展開を踏まえ、ソーシャルワークとの接点を確認し、障害がある人へのソーシャルワーク・アプローチによる支援モデルを考える」(「レポート課題」の課題1に相当)

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題 (学修時間目安：35時間以上)

「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、それぞれにまとめる(同時双方向演習の1週間前までに提出)。全体で4,000字程度にまとめる。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	障害がある人へのかかわりの歴史と障害概念の変遷と近年の到達点(ICFの考え方、差別禁止の方向性、障害学の展開など)について講義する。受講生はその歴史と障害概念を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	障害者支援におけるソーシャルワーク・アプローチの起源について及びソーシャルワークの理論と枠組み(生態学的視点、生活モデル、一般システム理論など)について講義する。受講生はソーシャルワークの歴史的展開を理解し、その起源と障害者支援の関連性に着目し、またソーシャルワークの視点、モデル、アプローチと障害者支援の関連性を把握し確認テストに解答する。	オンデマンド
3	障害者支援におけるソーシャルワークの視点(アドボカシー、エンパワメント、ストレングス)について講義する。受講生はアドボカシー、エンパワメントといったソーシャルワークの視点が、障害者支援にどのように具体化するかなどを理解した上で、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	障害者支援におけるソーシャルワークの展開(障害受容、SST、認知行動療法、家族システムズなど)について講義する。受講生は、障害児者への直接的支援として、その方法を具体的に理解した上で、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	障害者支援におけるソーシャルワークの展開(意思決定支援)について講義する。受講生は意思決定支援の意味、意義を理解した上で、その具体的実践方法について検討し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	障害者支援におけるソーシャルワークの展開(社会資源開発、チームアプローチ、多機関連携と地域支援システム)について講義する。受講生はチームアプローチなどの方法を具体的に理解し、その実践方法を検討し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	ソーシャルワーク理論・アプローチによる支援の実際(生活支援、ケアマネジメント)について、提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる 同時双方向演習
8	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用(働くこと、日中活動への支援)について、提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる 同時双方向演習
9	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用(発達すること、学ぶことへの支援)を提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる 同時双方向演習
10	ソーシャルワーク・アプローチによる支援の実際と活用(支援システム、地域自立支援協議会など)を提示する事例に照らし検討する。その際にはグループワークやロールプレイを用い、理解を深め、実践活用を図る。	オンラインによる 同時双方向演習

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：30時間)

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること。(受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること)。

■評価の方法・基準

- ・課題1レポート (15%)、課題2レポート (20%)
- ・スクーリング (事前課題15%、全スクーリング50%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- 1) 中野敏子『社会福祉学は「知的障害者」に向き合えたか』高菅出版、2009年
- 2) M. オリヴァー著 野中猛・河口尚子訳『障害者にもとづくソーシャルワーク』金剛出版、2010年
- 3) C.A. ラップ R.J. ゴスチャ著 田中英樹訳『ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント』金剛出版、2008年
- 4) L.C. ジョンソン S.J. ヤンカ著 山辺朗子・岩間伸之訳『ジェネラリスト・ソーシャルワーク』ミネルヴァ書房、2004年
- 5) 岩田正美『社会的排除ー参加の欠如・不確かな帰属』有斐閣、2008年
- 6) 久保紘章・副田あけみ『ソーシャルワークの実践モデルー心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店、2005年
- 7) 狭間香代子『社会福祉の援助観ーストレングス視点/社会構成主義/エンパワメント』筒井書房、2001年
- 8) 横須賀俊司・松岡克尚『障害者ソーシャルワークへのアプローチーその構築と実践におけるジレンマ』明石書店、2011年
- * 9) 山下香『ソーシャルワークマインドー障害者相談支援の現場からー』瀬谷出版、2018年